

『人権作文発表会』



10月26日に夏休みにみんなが書いた人権作文優秀作品の発表会がありました。1年生からは1組のと4組のが、発表を行いましたので紹介します。

去年の夏、テレビでリオオリンピックの卓球の試合を見ていると一人の選手が目に入りました。その選手は、右腕のひじから下がらないのにもかかわらず、パラリンピックだけでなくオリンピックの代表として出場していました。

その選手の名前はナタリア・パルティカといい、ポーランド卓球女子代表で、リオオリンピックでは団体に出場。1回戦で日本と対戦し敗退。パラリンピックでは金メダルを獲得しています。オリンピックにはその他にも、北京・ロンドンと出場しています。彼女以外にも障がいを克服してオリンピックに出場した人はいます。韓国のアーチェリーのイム・ドン・ヒョン選手は、左目は健康な人の10パーセント。右目は20パーセントの視力で、法的に盲目と分類されますが、オリンピックロンドン大会で世界記録を出しました。マーラ・ランヤン選手は視覚障がい者とされていますが、アテネオリンピックでは、1500mの選手としてアメリカの陸上チームに参加し、決勝戦の結果は8位でした。こんな選手たちがいると思うと、障がいなんて関係ない。障がいのある人は弱くなんてないと気付かされます。そして勇気をもらえて応援したくなります。

他にも応援したい選手はいます。僕と同じ明石出身の女子車いすテニスの上地結衣選手です。テニスの4大会シングルスで優勝4回。リオオリンピックシングルス、銅メダルの選手です。ダブルスでも史上3組目となる年間グランドスラム(4大会制覇)を達成し、「女子車いすテニスにおいて最年少で年間グランドスラム」という記録としてギネス世界記録に認定されました。東京パラリンピックでは金メダルをとって欲しいなと思います。

オリンピックにも人権問題があります。その1つとして人種差別です。アパルトヘイト(有色人種の隔離政策)をおこなっていた南アフリカ共和国は、1964年の東京大会以降、参加が認められず、1971年にはオリンピックから追放されます。復帰したのは、1991年にアパルトヘイトを撤廃した翌年のバルセロナ大会からでした。また、1968年のメキシコ大会の陸上男子200mで、金メダルと銀メダルを獲得したアメリカ国籍の黒人選手が、黒い手袋をはめた拳を高く突き上げ、黒人差別に抗議しました。

オリンピックは「平和の祭典」と称されるからこそ、人権侵害はあってはならないと思います。今、世界のどこかで行われている戦争だって、関係のない人たちの命が奪われているのだから、人権侵害だと思います。3年後に日本で開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、人権侵害がなくなって、少しでも平和になっていけばいいなと願います。そうするためには世界が1つになっていくことが大切だと思います。障がいの有無や、人種、性別なんか気にせず、全員が一人の人間として競技を行って、世界が1つになっていって欲しいです。

『障害の壁』1組



今回の発表会で思ったことは、私はオリンピックというスポーツに全く興味がないので障害者がパラリンピックだけでなくオリンピックにもでていたとき、びっくりしました。オリンピックは平和の祭典。差別はなくなってほしい。まさにその通りなのかなと思いました。けれど差別ではなくともなにかしら障害を持つ人に思う事はあると思います。どう相手に接すればよいか。これが1番の障害の人との壁なのかなと私は今日この発表会を見て感じる事ができました。人と人との関わり。これは生きてゆく上で絶対に必要なものであり、すでもっているものなのかなと思います。これが人権作文の「人権」の意味ということなのか。この発表でこういういろいろな戦争やいじめ、差別について考えられた、とてもいい機会だったと思います。

2組



色々な他の人の意見を聞いて、たくさんの事を学びました。改めて聞くことで、「そうだなあ」「そんなふうにしていかないとなあ」と色々思うこともありました。私が聞いた中で、1番心に残り共感した人権作文は、2年1組山本海勢さんの『大好きだった祖父』です。3年前に亡くなった祖父についてお母さんから聞いたこと、自分で覚えていることをもとにしたものでした。だんだん痩せていき元気がなくなった祖父のことを詳しく書いて、私の祖父母もいずれはそうになってしまうのかな?なってしまうたらどうしよう色々思いながら聞きました。でも、いずれはそうになってしまう日が来ます。その時はできるだけ力になり、残りの人生を幸せに生きてもらえるよう、冷静に判断していけたらなと思います。

4組

